江戸期宗谷場所来訪年表

17世紀のはじめに宗谷場所が開設され、18世紀末には対ロシア政策としての蝦夷地警備(北方警備)、北に向かって開かれた宗谷場所の重要性が増大している。宗谷が近世日本史に登場するのは、往来の記録が多く残された二度の幕府直轄時代に集中しているが、どのような人たちが訪れていたのだろうか。宗谷場所に関係する人々の往来と出来事を年代順に書き出してみた。歴史に名を残している人も見え、辺境の地といわれた宗谷も世界情勢と無縁の地ではないことは、多くの人々がひんぱんに往来していたことからもわかります。

1603(慶長８年)◉宗谷に役宅設置、利尻、礼文、唐太を司る
1635(寛永12年)◉松前藩士村上広儀全島廻りの途次宗谷に滞在
◉松前藩士佐藤加茂左衛門、蠣崎蔵人が宗谷珊内から渡樺(白主)
1636(寛永13年)◉松前藩士甲道庄左衛門、渡樺、白主で越冬
1637(寛永14年)◉松前氏、樺太蝦夷に交易は宗谷ですることを申し渡す
1643(寛永20年)◉オランダ探険船宗谷近くを北進、樺太東海岸近くまで巡航
1644(正保元年)◉江戸幕府、諸国大名に国絵図の提出を求める(正保御国絵図)
1651(慶安４年)◉蠣崎伝右衛門、樺太を巡視
1661(寛文元年)◉松前藩士吉田作左兵衛、地図調査
1669(寛文９年)◉松前藩船が宗谷、利尻、樺太で交易を行なう
◉シャクシャインの戦い
1670(寛文10年)◉西蝦夷蜂起　宗谷、利尻のアイヌ余市に出かけ和睦勧告、津軽藩隠密と会見
1684～7(貞享年間)◉松前藩宗谷場所を開設(貞享中とある)
1689(元禄２年)◉松前藩士蠣崎七之丞憲時宗谷を巡視
1696(元禄９年)◉朝鮮人李先達ら8人礼文島に漂着、宗谷、松前を経て江戸送り
1697(元禄10年)◉江戸幕府、再び大名に国絵図の提出を求める(元禄御国絵図)
1698(元禄11年)◉西蝦夷地疱瘡流行、夷人多数死亡
1706(宝永３年)◉初代村山伝兵衛が宗谷場所を請負　3年間
1737(元文２年)◉山丹人宗谷に来る
1750(寛延３年)◉村山伝兵衛宗谷場所を請負う　6年間
1751(宝暦元年)◉加藤嘉兵衛、福山の商船栄福丸で樺太白に行き交易
◉宗谷で樺太蝦夷と和人の交易盛んになる
1756(宝暦６年)◉浜屋与三右衛門、天満屋専右衛門、材木屋七郎右衛門ら近江商人宗谷場所を請負
1758(宝暦８年)◉道東地方のアイヌ大軍で宗谷アイヌを攻め、死傷者三百余名
1759(宝暦９年)◉道東地方のアイヌ厚岸で宗谷の乱を謝罪
1761(宝暦11年)◉宗谷場所、松前藩の直轄となる
◉斜里アイヌと宗谷アイヌ紛争
1764(明和元年)◉松前藩士和田某、樺太へ渡り探険した説あり
1765(明和２年)◉松前商人恵比須屋三右衛門、松前藩船禎洋丸の支配を命じられ宗谷場所を請負

1769(明和６年)◉恵美須屋半兵衛、宗谷通いの夏船長者丸の運上金130両上納
1773(安永２年)◉村山伝兵衛、樺太漁場を検分
1775(安永４年)◉三代目飛騨屋武川久兵衛宗谷場所を請負(15年間)
(実際は三代目村山伝兵衛が下請け)
1777(安永６年)◉松前藩士新井田隆助、樺太アイヌを介抱、救恤
1778(安永７年)◉満州官人、樺太ナヨロ酋長宗谷に来る
1779(安永８年)◉浅間嘉右衛門、宗谷場所奪取を企む、飛騨屋久兵衛幕府に公訴
◉西蝦夷地疱瘡流行、死者多数
1780(安永９年)◉疱瘡再燃、一層猖獗をきわめる
1781(天明元年)◉宗谷に厳島神社創建(飛騨屋、村山家並立期)
◉公訴判決浅間嘉右衛門死罪、蠣崎佐士追放、湊源佐衛門重追放、尾見兵七閉門
1782(天明２年)◉天然痘流行
◉飛騨屋支配人向井金蔵、厳島神社に鰐口を奉納
◉飛騨屋持船、常陸丸難破、松前藩士2人・船員17人溺死
1783(天明３年)◉大飢饉で宗谷アイヌ(宗谷・目梨900、樺太180)餓死者続出
◉天然痘再発
◉飛騨屋の宗谷場所請負期間、更に延長
1785(天明５年)◉宗谷に北門神社創建(村山家創始、元名を宗谷大神宮)
◉幕吏普請役庵原弥六、引佐新兵衛、鈴木清七らの天明の蝦夷地調査隊、樺太を調査し宗谷に帰着、宗谷で越冬(6月20日宗谷着、7月2日渡樺、8月中旬宗谷帰着)
◉調査隊の佐藤玄六郎(宗谷詰)北海岸東海岸を巡察して江戸に帰る(8月23日出発)
◉松前藩士新井田隆助樺太を巡見
1786(天明６年)◉庵原弥六(3月15日)、松前藩士工藤忠右衛門(3月21日)、田村運次郎(3月2日)、柴田文蔵(3月28日)、通辞長長右衛門(3月7日)病死
◉幕吏大石逸平単身で樺太調査(4月18日宗谷着、5月3日渡樺、7月7日宗谷帰着)、里見平三宗谷で後詰
◉飛騨屋の宗谷派遣船宗谷で難破
1787(天明７年)◉フランス探険船、宗谷海峡を西から東へ通過、ラ・ペールス海峡と命名
1788(天明８年)◉古河古松軒、松前で宗谷の状況を聴取『東遊雑記』
◉飛騨屋久兵衛宗谷場所決算を提示
1789(寛政元年)◉飛騨屋、厚岸霧多布国後宗谷四場所を松前藩に取り上げられる
◉三代目村山伝兵衛前四場所請負い、陸路食料を各場所に送る
◉幕吏最上徳内ら宗谷を巡視(国後、目梨アイヌ蜂起の影響調査)
1790(寛政２年)◉最上徳内『蝦夷草紙』(「蝦夷国風俗人情之沙汰」)
◉松前藩、宗谷と厚岸に勤番所、樺太場所独立勤番所設置
◉松前藩士高橋清佐衛門樺太を調査、交易場所、番屋を設置、後に運上屋となる
◉村山伝兵衛樺太場所を請負
1791(寛政３年)◉松前藩士、松前平角ら4名樺太を視察『唐太見分書』
◉宗谷差配人、村山伝兵衛、樺太アイヌに漁法を教える

1792(寛政４年) ◉最上徳内、小林源之助樺太を踏査
◉幕吏小人目付木村大蔵、串原右仲宗谷『夷諺俗話』に救済交易会所を設けて采配、普請役中村小市郎、下役的井要助斜里巡察、最上徳内、和田兵太夫、小林源之助ら樺太に渡り西海岸は久春内・東は遠淵まで調査
◉下役長川仲右衛門、今井元広宗谷に滞在(野寒布、抜海の漁場に出張・海鼠漁を主に鰊漁も)
◉阿部屋支配人　村山長三郎
1794(寛政６年) ◉桂川甫周「北槎聞略」(大黒屋光太夫からの聞き取りしたロシア漂白記)
1796(寛政８年) ◉村山伝兵衛、宗谷場所を罷免
◉宗谷場所、小山屋権兵衛が請負
1797(寛政９年) ◉宗谷場所、小山屋権兵衛(白山)が請負、藩士板垣豊四郎の管理
◉英国人ブロートン、宗谷海峡と樺太沿岸調査
1798(寛政10年) ◉幕吏勘定吟味役三橋藤右衛門、宗谷を巡回、アイヌに大宴会(7月7日宗谷着)
◉三橋に随行の武藤勘蔵『蝦夷日記』
◉幕吏近藤重蔵エトロフ巡視の帰途宗谷に寄る
◉幕吏谷口青山、宗谷を写生「谷口青山図」
1799(寛政11年) ◉東蝦夷地、幕府直轄
◉幕吏村上島之丞『蝦夷島奇観』
◉最上徳内『蝦夷草紙後編』
村山伝兵衛、宗谷などの秋味直営手附を被命
1800(寛政12年) ◉幕吏庵原時敏、宗谷に弥六の墓を建立
◉松前藩、宗谷場所直営(藩士高橋壮四郎、目谷安次郎管理)
◉大阪商人柴屋長太夫、宗谷場所の仕入れを任ぜられる
◉栖原角兵衛、宗谷、樺太大泊間に定期航路を開く
1801(享和元年) ◉奉行松平忠明、宗谷を巡視
◉奉行一行の磯谷則吉、宗谷に滞在『蝦夷道中記』
◉松前藩士高橋壮四郎、宗谷場所を管理
◉宗谷に台場を築設
◉幕吏蝦夷地御用掛羽田正養、中村小市郎、高橋次太夫、樺太を巡察『唐太雑記』
◉この冬宗谷場所の狩猟薄く、東蝦夷地に救助を請うものあり
1802(享和２年) ◉宗谷アイヌ188人、斜里アイヌ130人、根室の目梨に逃げて食を求める
1803(享和３年) ◉宗谷、斜里地方大不漁、夷人二百余名根室に救助を求む
1804(文化元年) ◉近藤重蔵『辺要分界図考』
1805(文化２年) ◉レザノフ野寒布に上陸、クルゼンシュテルン船長日本海から宗谷海峡をぬける
◉商船伊勢丸ノシャップ沖で異国船に遭い避難
◉宗谷地方天然痘流行、利礼の蝦夷大部分死亡
1806(文化３年) ◉幕吏勘定吟味役村垣左太夫、目付遠山金四郎らロシア軍上陸の実情調査で宗谷を巡視『西蝦夷日記』、扈従東元穎『東海参譚』
◉レザノフ、海軍中尉フオストフを派遣して樺太南端、久春古丹の運上屋を襲う

1807(文化４年)◉樺太を含む全蝦夷地幕府直轄開始(前期幕領時代　～文政4年)
◉松前藩樺太支配人柴田角兵衛、白主でフオストフの久春古丹事件を知り、宗谷にもどり飛脚をもって松前藩に知らせる
◉函館奉行支配下の調役深山宇平太、同下役小川喜太郎ほか5～6名宗谷警備
◉松前藩家老松前左膳、4月16日兵百数十人を率いて、27日宗谷着、5月12日渡樺
◉津軽藩蝦夷地出兵、4月19日藩士伊東友衛以下25人、20日藩医佐々木元竜以下25人が先発として宗谷に急行
◉露船礼文沖に現われ、松前商船を焼く
◉露船ノシャップ沖に現われ松前藩船禎祥丸を襲い兵器を奪う
◉利尻島で幕吏上乗の万春丸を襲い、物品を略奪し船舶倉庫を焼く
◉択捉島で捕えた長内、六蔵、三助、紗那で捕えられた南部藩火業師大村治五郎、前年樺太久春古丹で拉致された番人富五郎、酉蔵、源七、福松釈放される
◉択捉詰め予定の津軽藩士山崎半蔵ら80名6月5日宗谷着、宗谷警備『宗谷詰山崎半蔵日誌』
◉幕吏松田伝十郎、館野瑞元ら30余人7月18日宗谷着「館野瑞元書簡」
◉宗谷に駄馬30頭初めて配備、8月24日
◉幕吏吟味役鈴木甚内総指揮、津軽藩兵230人を指揮、幕府方12名、津軽藩惣頭役貴田十郎右衛門、勘定小頭山崎半蔵、勘定人伊東友衛、斎藤久司大筒役2人、足軽目付成田勝左衛門、そのほか大組、御持筒、諸手、御城附、長柄並御持槍、掃除小人、杖突、鳶の者、御大工、町大工、郷夫共200余人、9月27日宗谷着
◉近藤重蔵、田草川伝次郎『西蝦夷地日記』、山田忠兵衛、9月14日宗谷に来る
◉津軽藩兵水腫病で、多くの死者を出す(津軽亡霊簿の文化5年の陣没者数119人が斜里と宗谷の合計とすれば、斜里72人、宗谷47人となる、また山崎半蔵日誌によれば宗谷で32人を確認できる)

1808(文化５年)◉幕吏松田伝十郎、樺太調査の命を受ける、2月16日
◉函館奉行所雇間宮林蔵、御雇医師館野瑞元宗谷に来る、3月13日
◉最上徳内宗谷に来る
◉調役下役元締松田伝十郎、間宮林蔵樺太探険、4月13日渡樺、6月20日宗谷帰着
◉会津藩軍将内藤源助ら622人を連れ宗谷に上陸、津軽藩と宗谷警備を交代、梶原平馬この内252人を率いて利尻島警護、4月17日
◉会津藩家老北原采女ら746人を従えて樺太へ直行(出軍記より)
◉幕吏吟味役高橋三平、鈴木甚内と交代、調役荒井平兵衛、川久保和三郎同日着、4月17日
◉松前奉行河尻春之宗谷を視察
◉間宮林蔵単身で樺太探険の途に就く、7月13日
◉松田伝十郎「からふと嶋奥地見分仕候趣奉申上候書付」
◉間宮林蔵「カラフト島見分仕候趣申上候書付」
◉間宮林蔵「カラフト島従シラヌシ至ホロトコタン再見分仕候趣申上候書付」
◉宗谷の運上屋、板蔵、小屋等5棟焼失、運上屋支配人藤右衛門

- 初代柏屋藤野喜兵衛、恵比須屋西川准兵衛、坪田左兵衛三人共同で宗谷場所請負を命ぜられる
- 宗谷警備中の会津藩士多数病死(利尻、樺太含め50人)
- 会津藩高津泰『終北録』

1809(文化６年)　(唐太を北蝦夷と改称)
- 宗谷警備の会津藩、津軽藩兵と交代、諸手詰頭蝦名彦右衛門、御目付笹角之丞、副使岡本専蔵、他に勘定方、浮武者、大筒方10人
- 松田伝十郎北蝦夷地詰を命ぜられる(～文化9年まで)
- 間宮林蔵(海峡確認5月12日)、樺太、満州仮府探険を終え9月18日宗谷にもどる
- 松田伝十郎山丹交易の改革に着手、樺太・宗谷アイヌが山丹人からうけている負債を毛皮で返済
- 伊達林右衛門、栖原三右衛門、北蝦夷地を請負う
- 高橋景保『日本辺界略図』

1810(文化７年)
- 藤原義行鋳造の釣鐘宗谷護国寺に奉納
- 藤野喜兵衛利尻に出漁
- 利尻警備終了(1月)、宗谷の越冬警備をやめ、増毛までの退避越冬に改める
- 間宮林蔵『東韃紀行』『里程記』『北蝦夷地図』『北夷分界余話』

1811(文化８年)
- 松田伝十郎、宗谷と樺太白主に小早舟を配備

1813(文化10年)
- 宗谷警備の木村徳弥病没

1814(文化11年)
- 幕吏洞金助宗谷で病没

1815(文化12年)
- 恵美須屋准兵衛、坪田左兵衛宗谷場所請負いをやめる
- 初代藤野喜兵衛宗谷場所を単独請負う

1817(文化14年)
- 西蝦夷地実測の間宮林蔵、江戸の伊能忠敬のもとへ行く

1818(文政元年)
- 藤野喜兵衛利尻、礼文も請負う

1821(文政４年)
- 幕吏調役並松田伝十郎宗谷詰め4月着任、配下同心木村重平、高森敬次郎、畑麟三郎、桜庭権蔵、森八郎、在住勤方長島平作、諭書持参者番人松之助らの着任を待って砲台建設に着手

1822(文政５年)
- 前期幕府直轄終了
- 松田伝十郎、松前藩工藤幸治と交代、同心木村重平、石黒善吉、畑麟三郎、村田又市、在住水谷茂一郎、長島平作
- 松田伝十郎『北夷談』

1823(文政６年)
- 厳島神社に藤野家船頭松本金蔵らが石鳥居、宗谷番人たちが石灯籠を奉納

1824(文政７年)
- 宗谷支配人、嘉吉ら厳島神社に手洗鉢奉納

1825(文政８年)
- 利尻島に北見神社を創建

1828(文政11年)
- 宗谷場所請負人初代藤野喜兵衛没し、二代目藤野喜兵衛(百次郎)

1829(文政12年)
- 松前藩目付奥平勝衛『宗谷勤番日記』、宗谷勤番所詰合、目付1、平士1、徒士2、手付3、医師1

1830(天保元年)
- フランス地理学者ルクルスその著書に間宮海峡の発見者は林蔵なりと記す

1831(天保２年)
- 場所請負人藤野喜兵衛、支配人阿部喜右衛門、番人竹松ら岬神社を創建

◉稚内見晴ガ丘に神社を建立(北門神社)

1832(天保３年)◉場所請負人藤野喜兵衛、厳島神社を改築

◉場所請負人藤野喜兵衛、支配人阿部喜右衛門ら、岬神社に大鳥居を奉納

1835(天保６年)◉粂屋八右衛門、厳島神社に鳥居を奉納

◉場所請負人藤野喜兵衛、岬神社に鳥居を奉納

1837(天保８年)◉前年の飢餓にかんがみ、宗谷に備米を貯蔵

1840(天保11年)◉松前藩、西蝦夷地増毛以北への漁民出稼ぎを許可

1842(天保13年)◉長門代官布施虎之助、海保海幸翁に聞き『唐太話』

1844(弘化元年)◉松前藩物頭奥平勝馬宗谷勤番

◉この年の宗谷勤番、台場係のための在住者足軽の外16人

◉目付新谷雄右衛門、医師相川多仲、宗谷に来る

1845(弘化２年)◉三代目藤野喜兵衛(次兵衛)宗谷場所を請負う

1846(弘化３年)◉松浦武四郎宗谷より樺太へ渡る『再航蝦夷日誌』

◉宗谷勤番所詰合、物頭1下4、目付1下3、添士2下4、徒士目付2下2、徒士3下3、医師1下1、足軽6、ほか従者　計33人

1848(嘉永元年)◉米人マクドナルド、利尻島に漂着

1849(嘉永２年)◉三代目藤野喜兵衛隠居、四代目藤野喜兵衛(庄兵衛)継ぐ

1850(嘉永３年)◉常陸国宮本家の弁財船山王丸、宗谷に寄港

◉藤野喜兵衛、宗谷、斜里場所引受証文を提出

1851(嘉永４年)◉四代目藤野喜兵衛病死、五代目藤野喜兵衛(幸次郎)継ぐ

◉シーボルト『日本辺界略図』

1852(嘉永５年)◉宗谷アイヌ瘡痘にかかり死者多数

◉ネベリスキー海軍大佐、久春古丹を襲う

1853(嘉永６年)◉ペリー来航、米国書を受け取る

◉仙台藩小野寺鳳谷、「宗谷里程表」を作成

◉ロシア海軍大佐ネヴェルスキー久春古丹を襲う

◉松前藩樺太派遣隊尾見雄三ら60余人、解氷期まで宗谷で待機

◉宗谷地方の瘡痘依然として続き死滅状態となる

1854(安政元年)◉神奈川条約を結び、函館・下田開港

◉待機中の樺太派遣隊氷の流出を待ち渡樺

◉函館奉行堀利熙、村垣与三郎宗谷から渡樺、随員、徒目付河津三郎太郎・平山謙二郎・鈴木尚太郎・支配勘定上川伝一郎、普請役間宮鉄次郎・学者役武田斐三郎・通詞名村五八郎・天文方橋本悌蔵、絵図師横井所左衛門・医師飯田玄周、堀利熙の小姓榎本武揚　他総勢50人6月2日宗谷着、12日久春古丹着

1855(安政２年)◉後期幕府直轄開始

◉宗谷地方秋田藩の警衛地にはいる(日本海神威岬～宗谷海峡～オホーツク海知床岬・カラフト)3月27日

◉露船ヘタ号宗谷海峡で英仏艦隊の追撃をうける

◉宗谷土着の始祖、通弁高島兼蔵宗谷に移住

◎「西蝦夷地場所請より申上」
◎函館奉行、奥地駐在幕吏に「妻子召連れ引移り候こと勝手たるべし」との達し
1856(安政３年)◎函館奉行支配組頭向山源太夫、宗谷場所を引継ぐ
◎幕吏調役下役元締梨本弥五郎、鈴木徳蔵、大塚良浦、小谷邦之助、平沢勝次郎らと、婦女子禁制の迷信を打破し、妻子を連れて宗谷に赴任
◎向山源太夫宗谷で病死、8月14日
◎函館奉行所御雇松浦武四郎東北西蝦夷地一周『武四郎廻浦日記』
◎宗谷護国寺建立の議まとまる
◎佐倉藩士窪田子蔵蝦夷地巡回視察のため宗谷に来る『協和私役』
◎蝦夷を土人と改称する宗谷詰の伺い認可
◎弥五郎、アイヌ鍛冶職人景蔵にクワヘヒル(ストーブ)製造を命じる
1857(安政４年)◎宗谷詰大塚良輔の子息(童子)宗谷で病死、3月20日
◎調役下役庵原勇三郎、雇医師遠藤隆斎
◎宗谷で製造のクワヘヒル紋別に2個送る、5月
◎老中久世大和守の命をうけた成吉修宗谷に来る
◎早川弥五左衛門唐太西海岸調査
◎佐賀藩士島義男『入北記』
◎幕吏松浦武四郎「東西蝦夷山川地理取調御用」
◎『宗谷孟仙図』
◎函館奉行堀利熙、村垣範正、東西蝦夷地北蝦夷地東西海岸巡検31人
◎村垣『公務日記』、堀玉利熙の近習玉虫左太夫『入北記』(秋田藩士100余人)
1858(安政５年)◎松浦武四郎、東西蝦夷山川地理取調御用「古以登以誌・北岬誌」
◎宗谷詰大塚良輔の娘(童女)宗谷で病死
1859(安政６年)◎宗谷詰槍術師範(寿山了栄信士)宗谷で病死
◎宗谷護国寺仏殿建立
◎有珠善光寺の僧光禅、宗谷護国寺で布教
◎宗谷、秋田藩領となる、但し抜海、野寒布間は幕府直轄
◎松本吉兵衛『蝦夷地旅行日記』
◎目賀田守蔭『延叙歴検真図』
◎秋田藩領六代目藤野喜兵衛(伊兵衛)宗谷場所を請負う
1860(万延元年)◎抜海、野寒布間を秋田藩佐竹領に、珊内を幕府直轄に変更
◎松浦武四郎、宗谷アイヌも書かれた『近世蝦夷人物誌』
◎鈴木茶渓『樺太日記』(鈴木尚太郎　函館奉行所の役人)
◎秋田藩下級藩士長山茂『宗谷詰合日記』
1861(文久元年)◎仙台、会津、庄内、秋田藩に北蝦夷警衛を命令、2藩ずつ隔年
◎宗谷警備の秋田藩吟味役、後藤伊左衛門忠安死没
◎僧法隆、宗谷護国寺に入山
1862(文久２年)◎宗谷警備の秋田藩士吉成彦内死没
◎ロシア兵南下して内淵を占拠

1863(文久３年)●中島要之助、坂の下竜神宮を祭祀
●岡本監輔宗谷から単身渡樺
1864(元治元年)●岡本監輔北蝦夷地を調査『窮北日誌』
1865(慶応元年)●秋田藩、宗谷、利尻、礼文の運上金を二倍半の2500両に引上げる
●護国寺住職法隆、秀道と交替
●西村伝九郎『樺太巡回日記』
1866(慶応２年)●秋田藩、宗谷、利尻、礼文の運上金を更に3000両に引上げる
1867(慶応３年)●秋田藩、宗谷、利尻、礼文の支配を免じられる
●宗谷地方、函館奉行直轄地の編入
1868(明治元年)●明治新政府宗谷付近に一府建設の案出す
●権判事岡本監輔、農工民200人を率いて渡樺
●英国軍艦ラットラー号、枝幸沖で座礁、搭載貨物宗谷で保管
●西蝦夷地漁場請負人一同、連署して運上金の減免を嘆願
1869(明治２年)●判官竹田信順、東京移民百人を連れ宗谷に着任
●場所請負制廃止